中国・盧山に第四紀氷河の爪痕を見る

中　嶋　輝　允（鉱床部）
Terumasa NAKAJIMA

中国江西省にある盧山は　九江市の南に位置し　南北に連なる峰々は濃い緑に包まれている．　古来　盧山は“匡盧奇秀甲天下”と称され　天下の景勝地として名高い．　匡盧とは盧山の別名　甲は文字通りAクラスという意味である．

この盧山に　第四紀の氷河が懸っていたという興味ある研究が発表された．　中国には高い山が沢山あるので氷河現象はそれほど珍しいことではないが　盧山の高さや現在の気候を考えるとまさかという気がする．

盧山山麓から東方にかけて　良質の粘土　カオリンの産することが古くから知られており　これが景徳鎮で作られる陶磁器の原料として使われてきた．　そのカオリン鉱床の多くは花崗岩の風化したものである．　盧山を含む江南地方は　気候が大変温暖で風化作用が著しく土壌も到る所で赤くラテライト化している．　こんな場所の　標高1500m足らずの山に　かつて氷河が懸っていたというのである．　日本なら　さしずめ屋久島やその南の島々に氷河があったということになろうか．

盧山の氷河現象は　大慶油田の発見で有名な李四光によって報告されている．　U字谷　カール　グラート　氷河擦痕・溝型　羊背岩　モレーン　迷子石など氷河作用によって生じるいろいろな現象が盧山から見出された．その氷河現象をもとに　盧山には　古い方から鄱陽氷期　大姑氷期　盧山氷河の３回の氷期が認められるという．

とくに　前２回の氷河は大規模で　その先端は　麓の鄱陽湖にまで達したというのだからすごい．　ここではその中の大姑氷期の氷河作用によってできた盧山の地形とその周囲の風光を紹介する．

写真１　盧山　牯嶺のU字谷とグラート．
牯嶺には小さなU字谷がいくつかあり　写真の右上にはそのうち２つのU字谷とその間で鋭い山稜をなすグラートが見える．　これらは手前の大きなU字谷へと合流してゆく．

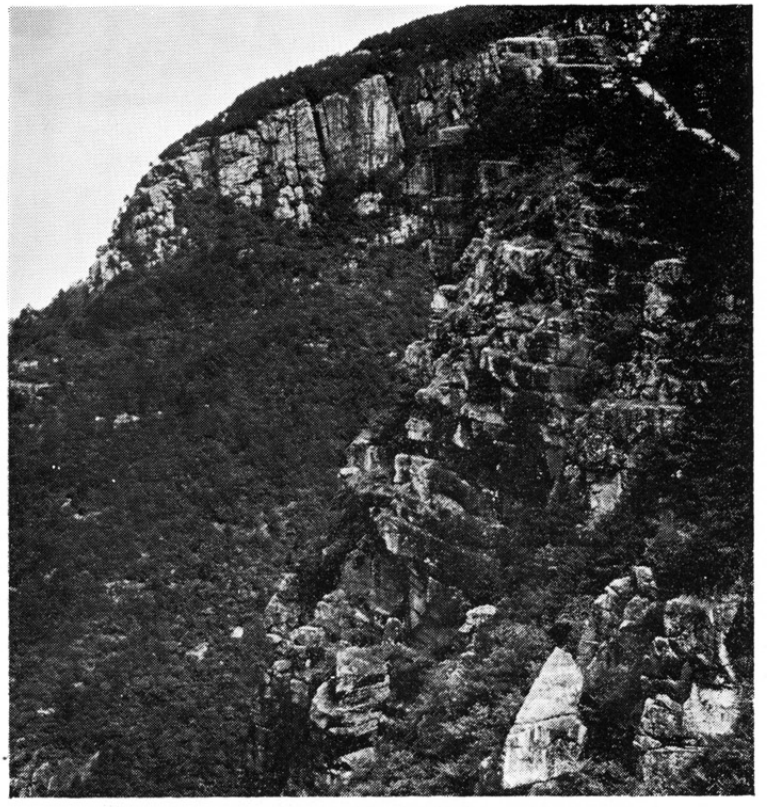
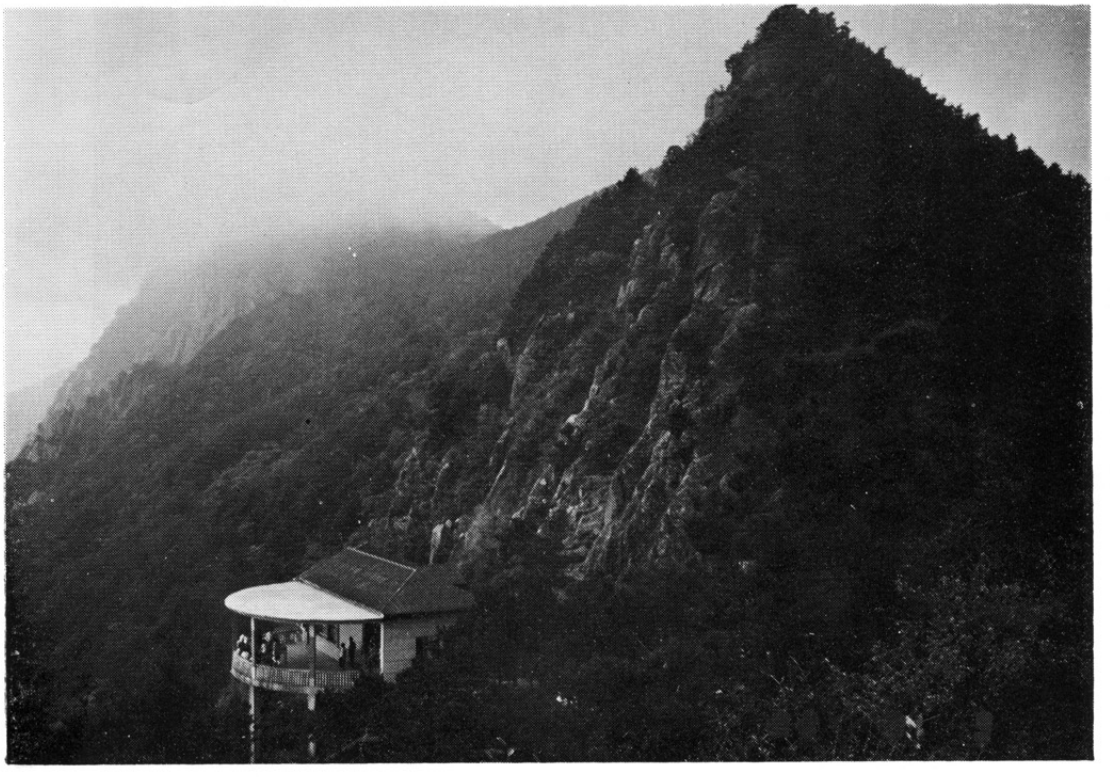
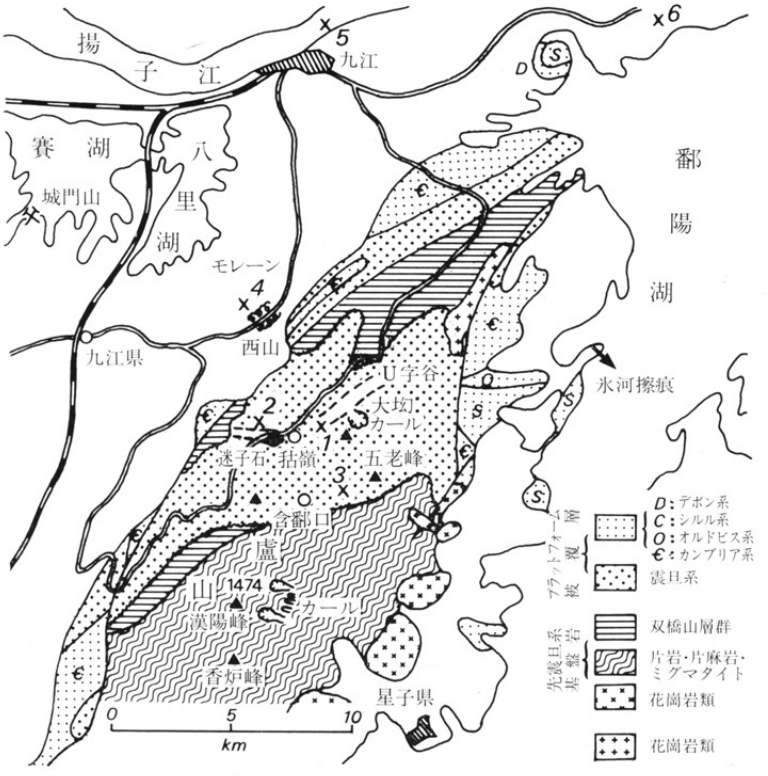


写真２
Ｕ字谷の壁面に露出する震旦系硐門層の石英砂岩・アルコーズ質砂岩．　層理が良く発達し地層の厚さは1400mに達する．　震旦系は先カンブリア紀末期の主に浅海性の堆積層からなり揚子プラットフォーム被覆層の主要メンバーである．

写真３
廬山　含鄱嶺のグラート
含鄱嶺から五老峰にかけては２つのＵ字谷が相接している．　このため間の尾根は両側から削り取られ　鋭く尖ったナイフリッジ（グラート）をなしている．　廬山はその長い地史を反映してかかなり複雑な地形を示す．　牯嶺を中心として　漢陽峰　香炉峰　五老峰などの峰々に分れなかでも香炉峰は白楽天の「香炉峰の雪は簾をかかげてみる」の詩句で名声い景勝地である．





第1図
盧山の地質と氷河作用
数字は写真の位置を示す.

写真4
盧山の北麓には　大姑氷期のモレーンがいくつも丘をなして連なっている.　九江から九江県への途中の西山付近の道路の切割りでは淘汰の悪い礫層からなるモレーンがみられる.

写真5　九江付近の揚子江河岸に露出する沖積層．　堆積物は赤茶けてラテライト質となっている．盧山の付近の低地の最も新しい堆積物はこのように氷河作用とはかなり縁遠いものである．帆掛け船は中国風のジャンク．

写真6　景徳鎮（チンデチェン）のセトモノ市

江西省ではどこでもセトモノ（？）は景徳鎮製つまりチンデチェン・モノである．　陶磁器の原料はカオリン．　中国では高嶺土（カオリンター）と書き　その名は景徳鎮市高嶺村に由来するという．　その最も大きい鉱床のひとつは盧山山麓の南康花崗岩の風化したもので“星子高嶺土”と呼ばれる．　友誼商店の高級陶磁器は紙のように薄いが　ここで売られている庶民的なものは逆に分厚い．　しかし　その値段は大へん安い．